

回顧と展望

岡山 文章

季節外れの台風2号がフィリピン諸島に姿を現した頃、世界保健機構（WHO）に対する台湾八回目のオブザーバー参加の申し込みがジュネーブで却下されました。133対25の大差での敗北でしたが、7年ぶりに投票実施に持ち込まれ、また日本、アメリカも初めて支持に転じたことは、国際社会の台湾問題に対する認識がさらに一步前進したということでしょう。

また5月20日、台湾総統の就任式が無事に終わりました「中国のエリート」ではなく「台湾の雑草」が半数強の国民によって選ばれ、台湾の新しい時代が始まりました。台風2号はその翌日の午後、戸惑いながらも足早に、三陸沖へと走り去りました。

さて我が日本台湾医師連合はこの一年間、政治評論家、国際ジャーナリスト、政治学者や政治家をお招きし、日本の友人達と一緒にいろいろな角度から台湾、日本及びそれらと関連する国際情勢について考えて参りました。そしてその都度、台湾のWHOへの早期加盟も訴えて参りました。またSARSが台湾で大暴れしている時期には、日本在住の台湾人医師団体と力を合わせ、大量の医療器具（陰圧アイソレータを含む）を台湾へ送り、あるいは台湾の台北医院における貴重なSARS臨床治療経験を1冊の文献にまとめ、日本全国の大学病院や各地の実地医療で役立ててもらいました。

去年10月、私は我が会を代表して日台高座会交流パーティーに参加させていただきました。ホテルに入るとざっと76脚の丸テーブルが並べられ、そこに日台双方750以上もの人々が集まり、たいへんな賑いでした。ご年配の方々が大多数ではありましたが、日台民間の心の繋がりがいかに強いのかを感じ、私は帰り電車の中で、ひたすら台湾の波乱の歴史に思いをめぐらせたものです。

また10月頃、我が会もささやかながら、池袋のホテルで初めて台湾医師会のメンバー達と交流の場を持ちました。会員紹介の程度でしたが、お互いに台湾と日本の開業医の苦楽を述べ合って、最後は一緒に「望春風」を歌いました。そのようなことが今後のより大きな協力の基礎になったと思います。

ところで吉川にある私の小さな診療所には、台湾に縁ある患者さんが数人います。例えば、会社の仕事で台湾に4、5年間駐在したことのある方や、吉川に来る前は九州で台湾出身の医師にお世話になっていた方や、親が戦前台湾で生まれた方などなどで、しばしば台湾のことで話が弾みます。また嬉しいことに金美齡先生の台湾ウイークのポスターを待合室に張り出すと、ぜひ見に行きたいと言われた方や、近くの公衆の場所にもポスターを張りたいと申し出られた方も何人かいます。中には待合室においてあった『台湾論』を見かけ、さっそく本屋さんで買い求めたらしく、その感想を私に伝えてきた方もいました。

このように私は患者さんとの交流の中で、いつしか台湾の「宣伝」も行っていたわけですが、それはおそらく日本各地の会員の皆さんも同じであろうと思います。

戦後50年以上が経ち、日本が「普通の国」になろうとしつつある今日、台湾もまた自分の道を歩き始めようとしています。世界情勢がダイナミックに動いている中、自民党の安倍幹事長が台医連講演会で指摘されたように、今後台湾が、さらに2回、3回と民主主義の成熟を国際的に示していくならば、世界の国々もその存在を認めるようになることでしょう。

我が会もその日まで頑張っていきたいと思えます。

日本台湾医師連合の歩み

平成14年2月11日

東京学士会館にて日本台湾連合の設立準備会が発足し、第一回役員会を開催
定款の草案、ホームページの開設、役員人事

平成14年3月10日

第2回役員会

創立大会の準備

WHO特別委員会を設立

平成14年3月21日

ホテルニューオータニにて創立大会および記念パーティを開催

重光茂栄先生が初代会長に就任（副会長：岡山文章、毛利 忠、常務理事：丘 哲治、
簡野国彦、武田守禄、長峰俊次）

平成14年4月4日

台湾のWHO日本訪問団と懇談会を開催

平成14年4月29日

第3回役員会 WHO 研究班を発足

ホームページに台湾のWHO 加盟促進運動 on line petition を始める

小泉総理大臣、川口外務大臣および坂口厚生労働大臣に台湾のWHO 加盟協力の要望書を発送

平成14年7月7日

第4回役員会 小沢一郎自由党党首の講演会準備会を設立（委員長：重光会長）

平成14年8月7日

羅福全代表を懇談、当会の志、主旨、立場を明確に述べる

平成8月12日

重光会長が第2回海外医療専門士帰国懇談会に出席

平成14年9月29日

第5回役員会 岡山文章副会長が事務長代行に就任

平成14年10月27日

NATMA（北米台湾人医師協会）台湾WHO加盟促進委員会およびFAPAと懇談会を在日台湾同郷
会と共催

平成14年11月10日

第6回役員会 小沢一郎先生講演会の準備作業の最終確認

平成14年12月1日

立川市市長および国際交流フェスタ実行委員長あてに抗議文を送る

(立川市市女性総合センターに予定された金美齡氏の講演会が、立川市在住の支那人団体の圧力によって中止された。この事件は日本の言論自由を侵すのみならず、日本の国益を犯しと日本国の尊厳を踏みにじるであると当会が判断し、抗議した。)

平成14年12月14日

ホテルニューオータニにて“小沢一郎が考える21世紀の日本とアジア”の演題で小沢一郎衆議員講演会を開催

平成15年1月12日

第7回役員会 会誌“さと医も便り”の発行を決定

次期役員改選のため、総会準備委員会および選挙管理委員会を設立

平成15年2月16日

第8回役員会

第二期の役員が郵送投票にて承認決定される

平成15年2月23日

台湾のWHO加盟にアフリカの国々の協力が得られるようコンゴ人医師 Dr. Milanga と懇談

平成15年3月9日

臨時役員会開催 会長、副会長、常務理事を選出(会長:岡山文章、副会長:毛利 忠、丘 哲治、常務理事:武田守禄、長峰俊次、中山博雄、東 昌明)

平成15年3月18日

水野賢一先生の励ます会に出席

平成15年3月21日

東京ホテル雅叙園にて日本台湾医師連合第1回定時総会および元駐タイ大使岡崎久彦先生の講演会を開催(演題:最近の国際状況と日本外交—台湾の戦略的意義)

平成15年3月24日

長野県知事田中康夫の台湾訪問を激励

(長野県日中友好団体井出正一会長が田中知事の台湾訪問を中止するよう圧力をかけたことについて、知事が理不尽な圧力に屈せず台湾を訪問するよう申し入れた。)

平成15年4月22日

WHO事務長Dr. Brundtland に台湾のWHO加盟協力の手紙を送る運動を始める

平成15年5月11日

台湾のSARS防衛に協力するため、当会の呼びかけで台湾SARS支援協議会が発足した。

(協議会メンバー:高雄医学大学日本校友会、中国医学大学留日校友会、中山医学大学留日校友会、日本台医人協会、日本台湾医師連合)

協議会の募金活動の結果、台湾医療機関にアイソレーションガウン、ゴーグルおよび負圧式カ

プセルタンかを贈呈

平成15年6月29日

2003年第1回役員会

河元康夫先生が当会代表としてWHO 台湾CAMPに出席

以下の研究班を設立：NPO 法人、パンフレット作成、危機処理、選挙規則、学術

平成15年8月10日

負圧式カプセルタンかの贈呈式および古森義久先生講演会をホテルニューオータニにて開催
タンかは駐日代表羅福全に引き渡す

講演会演題：アメリカから見た台湾、中国、日本

平成15年9月14日

学士会館にて黄焜璋院長講演会（演題：台湾SARSの治療経験—衛生署台北医院の成果を踏まえて）を開催

平成15年9月28日

2003年第2回役員会

平成15年10月18日

池袋メトロポリタンにて台湾医師会一行と懇談交流

平成15年12月23日

渋谷エクセルホテル東急にて三会共同忘年会および台湾総統呉剣燮副秘書長講演会を

日本台医人協会、怡友会と共催（演題：制定新憲法—台湾人の願景）

平成16年1月18日

第3回役員会開催

黄院長SARS講演録に日本語訳を公開することを決定

平成16年2月1日

ホテルセンチュリーハイアットにて若林正丈教授の講演会を開催
（演題：台湾ナショナリズムと日本、中国、アメリカ）

平成16年2月22日

第4回役員会

3月28日の総会および阿部晋三自民党幹事長講演会の準備について討議

安倍晋三先生講演録

3月28日さくら爛漫の東京で、日本台湾医師連合が、ホテルオークラにて盛大に主催した自民党幹事長安倍晋三先生の特別講演会は好評の中無事に終了しました。安倍先生はアジアに

おける日本と台湾、そして地域全体の国際情勢」を演題にし、一時間に亘って、広い視野でアジアの地域経済と安全保障問題を論じました。（文責日本台湾医師連合）

以下は講演から節録したものです。

本日、日本台湾医師連合の総会に、わたしを特別講師としてお招きして頂いて、誠に光栄と存じます。日頃、台湾出身の医師が日本の各地でわが国の国民の健康と地域医療を貢献していることを深く感謝致します、お礼を申し上げます。

去る3月20日における台湾の総統選挙が80パーセント以上の投票率で粛々と民主的に行なわれたことを心から敬意を表わし、お祝いを申し上げます。当局の発表によりますと陳水扁総統は僅差で再選を果たしました。まず、祝福を申し上げます。

選挙後は選挙について申し出があるようですが、これも最終的には、しっかりと法律にのっとって解決するであろうと思います。これから陳水扁総統は2期目に入り、台湾国内のみならず、この東アジア地域の平和と安定の面においても、陳総統が是非リーダーシップを発揮して頂きたいと願っております。

自由や民主主義そして市場経済は多くの先進国の共通価値観であります。特に民主的な方法で選挙を行うことは極めて重い価値があると多くの国が信じています。民主的な方法で選挙を遣り抜くことが、この国が進歩しているかどうかを判断する重要な物差しの一つでもあります。台湾はすでに3回の直接民主的な選挙が成功し、この事実は大変重いとわたしは思います。今後更に4回、5回選挙の成功を重ねていけば、世界各国はこの民主的なシステムを無視できなくなり、ひいてはこの国を認め、この国を尊重することになると思います。

こんな民主主義を台湾に植え付けたのは何と言っても前総統の李登輝さんである。彼は偉大な指導者でもある、と改めてそう思います。わたしは自民党の議員の一員として、何回が李前総統にお目にかかりましたことがあります。李前総統は日本語が上手で、日本の哲学も精通し、彼の話しに多くの各界人が感銘を受けました。これだけ日本のことを良く知り、しかも高い見地からものごとを言うので、ある意味では心理的な世界のリーダーではないかと皆が思いました。こんな立派なかたに、是非とももっと多くの日本人が会って貰いたいと思います。森内閣の時代、李前総統が心臓バイパス手術で訪日した時、多くの国会議員は、これは当然のことと思いました。やはり、これは多くの議員が李前総統にお目にかかったことの結果でしょう。

先ほど、祖父（＝岸信介）の話しが出ましたが、台湾が世代交替したように、日本も確実に世代交替が行われる。かつて、日本と台湾の交流方法は、自民党と国民党の間で中心的に行いました。いままで、台湾との関係は、まず蒋介石総統との話しから始まりました。いま、時代が変わりまして、陳水扁総統と民進党としっかり関係を作っていかなければならないと思います。わが党においても、この頃台湾との付き合い方がずい分変わりました。先般、他界されました山中貞則先生が中心となった世代は自民党対国民党の構図でしたが、これから自民党は民進党と交流を深めて行かなければならないと思います。皆がこのように感じましたが、すでに中川昭一、平沼赳夫先生等の世代が台湾の各政党との交流を深めていく動きも始まっています。

わたしは、当選十一年目で森内閣と小泉内閣の中、内閣官房副長官を勤めさせて頂きました。いま、小泉さんが二期目に入り、彼の政治姿勢は、新思考のもとで、国内では思い切った構造改革に着手し、外交面でもやはり改革の一環とし、建て前だけじゃなくで、しっかり本音で国民に語って、実行していく。特に安全保障においてもこのスタイルを取っています。

ご承知のとおり、小泉さんはいままで政治家のタイプと違いました。かつて、わが党の総裁になる道は自民党の要職を歴任して、政府の要職をも経験をし、さらには派閥を率いて子分

の面倒を見、兵を養って、そして勝負に出て、トップになっていくという道を歩かなければなりません。わたしの父もこの道を取ろうですが、途中で病に倒れた。小泉さんは、党の要職を経験していないですが、厚生大臣や郵政大臣は経験しています。いわゆる大蔵大臣、外務大臣という要職は一切遣ったことがない。かつてであれば、小泉さんは総理になれないと思います。森総理時代の後半、大変厳しい時期がありまして、森総理も自民党も国民から大変批判されました。このまま行けば自民党は政権を失うのではないかという時に、小泉さんが国民的に人気があるという背景で総裁と総理になりました。

昨年、前総理として森さんが訪台をされました。そういう意味では、森さんは大変見識がありまして、仁義に厚い方でした。気配りや根回しをしっかりとやる日本的なスタイルの政治家でもあります。一方、小泉総理は、気配りや根回しの言葉は知らないところがある方です。お二人の違う遣り方には、違う反応がいろいろありました。しかし、今まさには改革の時代を向いまして、いわゆる既得権利を得た団体と個別な関係を結んでいきますと、改革がなかなか前に進まなくなる恐れがあります。小泉さんは、お中元やお歳暮は一切受けらない、贈り物を着払いで贈り返す事さえあります。もちろん、ひとにもお送りませんでした。例えば、小泉さんが3期の厚生大臣を勤めましたが、普通ならば関連団体の日本医師会や歯科医師会の会長と会合を重ねていきますと、大変親しい関係になるはずですが、しかし、小泉さんがそういうことは致しません。一般的には、現場を良く知っている方がきめ細かく政策ができますが、改革する時にはむしろこれで冷静な判断ができるという考え方でしょう。国内の改革はこれで進んでいると言っても宜しいであろう。外交については、小泉さんは首相になる前に、厚生や郵政等については詳しいですが、衆議院の外交関係の部会などでの発言はほとんどありません。しかし、首相になりますと、日本に住む人たちの全ての責任は、官邸の主の肩にかかって来るという実感がありますから、安全保障をしっかりとしていく為には、外交はとっても大切と、小泉さんは身をもって分かっています。

では、小泉流の外交はどう進めているかと言いますと、それは外務省が作ったストーリーとおりに進めていくよりも自分の考え方を入れ込んでいく。首脳間のお互いの信頼関係を構築していて、それを主軸にして、外交を展開していくスタイルであります。何回も小泉さんと一緒に海外へ行って、首脳会談に同席してきました。森前総理はしっかり外務省が用意した“応答要領”を頭に叩き込まれ、首脳会談に臨む。決めた時間の中で、過不足なく、自分のユーモアを混じながら会談をしていく。かの有名な“森ブーチン関係”はこれによって築いていた経緯でした。

一方、小泉さんは、“応答要領”を見ているか、見ていないか分かりません。ほとんど“応答要領”にのっとった発言はしていません。通常、他国の首脳と会談する際には、特に初めての日米首脳会談においては皆が緊張しまして、外務省が用意した“応答要領”を熟読し、勉強してから会談に臨みます。しかし、小泉さんは外務省が事前に作った“応答要領”を無視し、ブッシュ大統領の前に、堂々と“日米同盟関係”はいかにアジア地域安定にとって重要が論じました。小泉さんのこういうスタイルをブッシュ大統領は大変気に入りました。昨年、首脳会談においても、ブッシュ大統領は小泉総理と会談は非常に楽しいと、自分の哲学と考えたことは十分に相手に伝えて、本当によく分かりました、と大統領は述べました。そういう意味では、ブッシュ大統領と小泉総理ぴったり合っていました。

そこで、小泉総理は日本とアジアの外交をどのように進めていくか、また、日中関係や日台関係や台湾海峡等の問題については、どの考えを持つか、わたしもなかなか良く分かりません。ただ、小泉さんはまず“日米同盟”は日本安全保障にとって、極めて大切であることを認識し、と同時に維持していく考えを示した。対アジア外交や対中国外交についてはこの思考を基軸

にし、アジア地域全体の平和と安定的な繁栄を考えていく。総理は昨年シンガポールにて、“アジアにおいては、東アジアだけじゃなくて、東南アジアも、さらにはニュージーランド、オーストラリアを入れて、アジア全域として、それを繁栄させて行くべきではないか”と演説をなされました。小泉総理の対アジア政策について多くの人は反論はしないでしょう。

いま、日本と中国との間では、経済的、人的交流が非常に盛んで、対中投資も非常に多い。小泉首相は正式に中国訪問が出来ないが、日中の間は、政治レベルと安全保障レベルの対話は充分に行われている。小泉総理は、公式訪問をする為に、無理して何かを譲歩するような形で中国に行く必要がないと考えています。公式訪問がなくても安定した対中関係を維持できると、総理は十分に自信を持っています。そういう自信を持つには、わたしは“日米同盟”をしっかりとしないとイケないと考えます。

一方、安定した中台関係については、この地域の平和と安定のことは日本の安全保障にとってきわめて重要なことです。日本は日中共同宣言を尊重し、今でもこの考えを維持しています。しかし、それ以上のものでもなければ、それ以下のものでもない。これが小泉政権の基本的な考えです。先ほども言いましたように今後、台湾が直接民主的な選挙を重ねて成功させますと、当然世界からの見る目は変わっていきます。世界各国はこの民主的なシステムに注目しなければならぬと思います。

複雑な国際環境の中、日米はともに北朝鮮問題を抱えております。それを解決する為、いまは6カ国協議が開催されております。米国自身が大統領選挙の日程があり、イラク問題等を抱えている中、なるべく北朝鮮問題を大きくしたくないという側面がある。従って、中国がこの6カ国協議で果たしている役割は大きいものがあると思います。その結果、昨年と今年2回の6カ国協議を行った。中国はこの6カ国協議の中で自分の国益を大いに得られるようつもりでもある。しかし、朝鮮半島の非核化は日米中韓ロシア五か国の共通目的であり、これによって日本と台湾との関係を変える必要はありませんでしょう。今後、日中や日台関係は6カ国協議と関係なく、続けて安定して発展して行くと思います。

中国では2008年の北京オリンピック開催が控えており、40年前の日本と同じようにオリンピックを通じて国を発展して行くつもりでしょう。いま、中国はこのコースに入っていました。しかし先進国は先進国それなりのマナーが必要であろう、オリンピックの開催国として、それに相応しい行動を取るのとは常識であろう。こういう考えは主流になって行くとはわたしは思います。

日本が中国に対して大きな投資を行い、日本の景気を支えているのは中国への輸出であることも事実です。他方、日台間の貿易量も相当なものがあり、それが一方に片寄ってはならないとは当然でしょう。この為、われわれは常に冷静な判断をしなければならないでしょう。

いま、日本と台湾の交流は大変盛んですし、日本の方は多くの国会議員を始め、文化人、経済界も頻繁に台湾を訪問しております。台湾の方も大勢の国会議員が日本を訪れ、やはりこのように御互いに人の交流が盛んになれば、日台関係はもっと安定していくと思います。例えば日本と韓国との間、かつて歴史的に不安定な要素があったが、交流によって安定感は増した、とわたしは思いました。だから、日本と台湾との交流をもっともっと厚くしていくことは、どんな時も関係を安定するに必要であろう。

7月に参議院選挙がありますが、その後3年間は恐らく選挙がないと思います。自民党が勝てば、国内において本格的に改革が断行できると期待しています。一方、外交面においても今より落ち着いていく方向へ展開するでしょう。いろんな不安定な要素がありますが、外交におきましては、イラクに自衛隊を派遣したこと。そこで何か問題があったらという問題、或はスペインと同じようなテロが日本で発生する場合はあったら、われわれはどういうふうに対処

するか。そういう意味では、国内の治安をしっかりと守らなければならないと思います。

かつてPKOにおいて、カンボジアと東ティモールに自衛隊を派遣するかどうかを審議する際、国会でPKO法案を討論した時、政府与党はカンボジアと東ティモールは絶対安全だから自衛隊を出すと言い張っている。これは詭弁でしょう、危険だからこそ自衛隊を出す、絶対安全なら、なにも自衛隊を出す必要はなく、民間人やボーイスカウトを派遣すればよいではないでしょうか。しかし、今回の自衛隊をイラクに派遣することについて、小泉首相が国会において、はっきりとイラクは安全でない、だからこそ自衛隊を出すと堂々に答弁しまして、自衛隊を出しました。いままでタブー視されるものが論議することによって、一つ一つを取り去りました。本来避けてきた議論を国民の目の前で論議することは大切だと思います。大切な議論というのは、憲法の改正や集団的自衛権の行使などがあります。日米安保条約をしっかりと機能させる為には、集団自衛権を日本が行使できることは必要であろう。集団自衛権を日本が行使できることになれば、完璧な防御ができ、ひいては、アジア地域全体の安全が保証されるでしょう。小泉総理はタブーを恐れてはいない総理だからこそ、こういう問題に取り組んでいける。小泉総理は任期中、こうした姿勢を変更するつもりはないといいますが、わたしは憲法を改正しない限り、だんだん限界が近づいてくると思います。例えば、万が一サマワに派遣した自衛隊がテロリストに攻撃された場合、その地域の治安担当のオランダ軍は守ってくれるということなる。逆にオランダ軍が攻撃され、自衛隊に助けを求める場合、現行の憲法の解釈では自衛隊はそれを拒否しなければなりません。この矛盾な状況をさしてしまうのは政治の責任にあり、自衛官たちにとっては耐えられないです。立法府の一員としてこの問題を正面から議論しなければならないと思います。いままで、国会の委員会の中で論議できなかったのはおかしいと思います。しかし、こんな問題をだんだん議論ができることは大きな変化でしょう。

北朝鮮の問題についても、長い間、北朝鮮は形としては社会主義、共産主義を標榜しておりました。こういう国を批判することは、長い間日本国内では教養がないと言われた時代がありました。その為、この地域が聖域とされました。しかし、北朝鮮が日本国民を拉致したことが表面化してから、日本の国民がびっくりして、驚きました。ある意味では、そういう聖域がなくなりまして、今後の論議においては、日本やこの地域の安全保障の為、タブーなしで論議することは必要と考える次第だと思います。どうも、ご静聴ありがとうございました。

質疑応答

Q： 日本政府は台湾との間に安全保障や政治問題等について、ずっと“関与せず、接触ず”の立場を取っています。しかし、去年の暮れに、台湾が国民投票を実施しようとする時、日本の交流協会台北事務所所長はがこの件について台湾総統府に対し、申し出をしました。これは日本政府の掲げた政策とは矛盾していませんか一方、中国が台湾海峡沿いに大量のミサイルを配備したことについて、日本政府は一言も言及していません、これはバランス的に欠けていませんか。

A： 大変厳しい質問でございますが、政府間の公式接触がないのに、いきなりそうしたことをしたのは、確かに唐突と思います。多くの国会議員もこのように感じました。交流協会台北事務所所長がこの申し出を出したことについて、わたしも驚きました。先般、わたしは中国の要人にお目にかかった時、この国民投票の事について話し合いをしました。日本の立場は日中共同宣言においては、中国の“中国は一つ”の立場についてそれを理解し、そして尊重すると、この立場は今も変わりありませんと伝えました。この地域の平和と安定はわが国の国益にとって、一番望ましいこと、と政府はいろいろな判断でこの措置を取った。自民党としてはこの国民投票については、政府と同じようなコメントは致しません。また、ミサイル問題について、日本も北朝鮮のミサイル

の脅威に晒されていますから、そういう意味では、台湾の国民の皆さんが感じるミサイルの脅威は当然のことでしょう。

Q：台湾が台湾海峡の安全保障について、再び国民投票を行う場合、日本は台湾とこの問題について、もっと意見交換をする必要はありませんか。

A：アメリカが制定したアメリカ国内法である台湾を守る“台湾関係法”は日本にはない。だから去年政府はどの基準で判断して、そのような措置を取ったか、わたしは分かりません。台湾の民主的な動きに対して、われわれはどう判断し、そして反応することは、これからわれわれも論議をしなければならないと思います。

Q：陳水扁総統が再選されたことについて、自民党は祝福のメッセージを送って頂きますか。

A：自民党としてメッセージは出してないですが、先ほどわたしがこの会の冒頭で総統選が粛々と民主的に行なわれることを心から祝福させていただきます。そして、台湾国内のみならず、この東アジア地域の平和と安定の面においても、陳総統がリーダーシップを発揮して頂きたいと願っております。

Q：去年のSARS騒ぎに続き今年も鳥インフルエンザという新興流行病が流行る昨今、こう言う伝染病を水際で食い止めるのはWHOを通じて世界各国での共同の努力しかないと思います。人間の健康に関する問題は政治だけじゃなく、健康上と公衆衛生問題でもあると思います。しかし台湾がずっとWHOへの加入を熱望し、それにもかかわらず、いまだにWHO加入が実現できない現状について、如何にお考えでしょうか。

A：人間の衛生と健康に関しては、このような感染症を一つの地域に封じ込めることはできないと思います。その地域全体が衛生に保たれ、そして防御が出来て、始めてすべての国民の健康が守られる。これについて、SARSが典型的な例だと思います。鳥インフルエンザについてもそうだと思います、どんどん国境を越えてほかの国に広がる。ですから台湾だけを除外するのはおかしいと思います。国連の理想は何だろうか、もう一度考え直す必要はあるでしょう。日本人は国連が好きで、国連は物凄く理想な世界と思いました。実際には、決してはそうではなくて、国連は各国がそれぞれの国益を主張する場でもあります。しかし、WHOのような組織は本来の理想で考えなくてはならないと思います。自民党はこのような考えを持つ国会議員が圧倒的に多いです。内閣副官房長官在任中に、わたしがそれなりの努力をして来ました。

Q：安倍先生は日台交流と日中交流について、バランスが必要とおっしゃいますが、今小泉首相が訪中でできない状況の中、台湾には行かれませんか。特にバランス感覚のいい安倍先生は、若者に人気ある秘密はそこに有ると思います。台湾を訪問すれば、もっと人気が高まるのではないかと思います、如何がでしょうか。

A：だんだん交流を深めるのは大切です。昨年麻生総務会長が台湾を訪問し、森前総理も訪台をされました。これは福田総理が退任後訪台していらいのことでした。バランスを考えながらわれわれも交流を深めていきたいと思います。今すぐ、わたしが行くと言うと、換えて後退することになる。そういうことを言って、絶対行ける時は言います。

Q：わたしも学生ですか、個人旅行で台湾へ行ったことがありました。その時は、日本人

と台湾人はお互いに尊重し合って、仲間に成り易いと肌で感じました。それとは別に、最近中国は凄い勢いで増大していて、一方新疆ウイグル族やチベットや香港や魚釣台島等の問題も抱えている。この辺を考えますと、日本は地政学上、日本に近い台湾と もっと緊密な関係を結ばなければいけないと思います。この点について安倍幹事長は 個人の見解で、これから日本はどのように台湾と付き合いに行くべきでしょうか。

A: 72年台湾が安保理常任理事の席を失って、国連から脱退して今日まで、台湾は非常に 特殊な関係で各国と交流して来ました。こうした中で、先ほど申し上げましたように、 自由や民主主義そして市場経済が多く先進国の共通価値観であること。台湾はずっ とこれを守って来て、世界もこの事実を無視できなくなりました。

一方、中国は政治的には依然として社会主義を堅持していますが、経済は市場経済の 原理を導入しまして、極めて特殊な政治形態だと思います。その中、いま経済面は大変 好調であり、この勢いで行きますと近い将来、中国のGNPが日本を追い越していく と予想されます。こうした状況の中、日中間の安定した関係は、安全保障や政治や経 済関係の面においても望まれることと思います。この友好的な関係は日本にとって極 めて重要であります。それと同時に、日本は国益の為に主張すべき時は主張しなけれ ばなりません。友好上の価値によりじゃなくて、われわれが国益を守ることが一番 価値あると思って、それで一時的にぎくしゃくするということがあってもやむをえな いでしょう。中国は台湾に対して、武力的な侵攻による解決をしないこと、或いは台 湾海峡で大波を起こさないことは、日本やアメリカやアジア地域の国にとって、皆が 望んでいることです。その観点から日本は中国に対して、しっかり進言と話し合わな ければなりません。間違ったサインを送らないことは大切なことです。

Q: 外務省の一部チャイナスクールと呼ばれる官僚は中国カードを使うですが、台湾カー ドを使うのを忘れていたようですか。日本の為、是非この台湾カードを使ってください。

A: 役所の方は台湾のことをもっと知らないといけないと思います。かつて外務省の人たち は台湾で中国語を習得してきましたが、いまはチャイナスクールと言われる役人たちは 中国に気に入られなければ出世できないような状況になってしまった。世界中どの 国の外交政策も自国の国益の為、有利な政策を外国に執らせようとします。中国は、 戦略的に日本の外務省に自分の執らせたい政策を執らせようと、いろんなことをする のは当然でしょう。しかし、それをやらせてしまった外務省は問題でしょう。

Q: 北朝鮮に日本政府はいろんな書類を出した時、向うの方々の役職名は、やはり書き括弧 (「」) を付けて出すのでしょうか。先般、国民投票のことで日本が台湾に申し出を出 した時、総統に書き括弧を付けて出しました。国交がないから仕方がないと、わたしは なるほどと思いました。そうすると北朝鮮も国交がないから、書類を出す時はもちろん 書き括弧をつけて出すでしょう。

A: そういう所、わたしも良く分かりません。

北朝鮮は使って貰いたい朝鮮民主主義人民共和国の正式な名称があります。平壤宣言 の中、われわれは朝鮮民主主義人民共和国を使いました。一方、去年われわれが国会に 出した拉致被害者家族を支援する法律の中、“北朝鮮”の拉致によって被害にあった という文言がありました。これに対していろんな意見が出ましたが、結局国交がないと いうことで北朝鮮を使いました。

台湾に対して出した申し出の文書、わたしは見ておりませんので良く分かりません。役

所はどうしてもそういう所なのでなかなかわれわれが言っても仕方がない。国交がないところは難しいところがありますでしょう。ただ、総統に書き括弧をつけたことが大変不愉快なことは、わたしは理解できます。北朝鮮に出した外交文書は、わたしは見ておりませんので良く分かりませんが、たぶん書き括弧つけていないと思います。通常外交文書は書き括弧を付けません。

Q： 中国への輸出は日本経済を支えるところがあると思いますが、一方日本のデフレは中国からの輸入によるものという見方もあります。その辺は如何がお考えでしょうか。台湾についても同じような状況ですが、その辺、日本としては積極的に台湾と経済協力のFTAを結ぶ計画はありますでしょうか。

A： 最近日本はメキシコとFTAを結びました。韓国とも話しが進んでいます。基本的に、FTAを次々に結んでいく方向となっていく方向です。台湾との間にもFTA研究会がありまして、両国の国会議員はこの問題について議論されています。中国については、このFTAを結ぶ話し合いは、今のところ全くない。中国は知的財産保護法等のいくつかの法律まだ整備していない現状において、話しを進めるのは難しいと思います。われわれが安心できる法的な体制がしっかりしない為、これを懸念する経済人もかなりおります。この問題を片付けないと、なかなかすぐFTAを結ぶことは難しいでしょう。我々は今、中国に対して大変な輸出と投資をしています。これは、相手が必要があるから輸出をする。台湾も中国に対して大きな投資をしています。この投資について、相手国が締めると困ると考え日本人は一部います。しかし、投資が止まったら相手の国も同じく困るでしょう。経済というのはお互いに利益があるのだから成り立てる、とわたしは思います。

あと書き

講演後の質疑応答の際に、聴衆から鋭い質問が次々と飛び出しましたが、安倍幹事長は彼の言葉通りに裏表なしに、一つ一つ丁寧かつ率直な口調で答えて下さいました。その姿は、見事に臨場の聴衆の共感を得て、心をひきつけておられました。魍魎魍魎の政界で活躍している政治家と思えないほどの清々しい姿は正しく時代の寵児そのものでした。

講演を終えて感じるのは、自民党のような膨大な組織をひとつにまとめて行くのは至難の業だということです。この戦後からずっと日本をリードしてきた自民党自体が変革を模索し、様々な信念と思想を持つ政治家たちがいる中、僅か49歳にして幹事長まで登りつめたのはさすがです。そのやり甲斐と苦労にはわれわれの想像を絶するものがあると思います。しかし、日本そして世界中に安倍先生のような先見と叡智を持った政治家がもっと沢山いらっしゃれば、きっと日本、アジアひいては世界が平和且つ安定した発展ができると我々は確信しております。これからも安倍先生のさらなるご発展とご活躍を微力ながら応援していきたいと思えます。

台湾人意識的形成以及台湾民族意識政治化的過程

東 昌明

目前台湾乱像的主因、乃国民对国家的認同各具不同意識型態、亦即台湾意識與中国意識的对立所導致。在民主政治史上、此独一无二異常的現象、台湾近現代政治史研究学者若林正大先生将它定名為“G-Y对立軸”G代表台湾意識（取自民進黨綠色旗幟引示）、Y代表中国意識（取自新党黄色旗幟引示）

此篇文章將分成二部分來追尋探討台灣人意識的形成、以及台灣民族意識形成過程中政治化的階段現象、為了方便行文、必須先把有關的名詞作一解說。

首先、台灣意識、台灣民族意識是什麼？簡單來說、就是台灣獨立的思想與運動。具體而言、就是以台灣為主體、形成獨自的政治共同體、在國際社會上擁有獨立的主權與地位。

接着、台灣人應如何定義、台灣人意識又是什麼？這就比較複雜、無法三言兩語將它說清、必須藉助某些史實來引證。一般在討論國民國家的觀念時、平野健一郎（社會學學者）的“Orthodox model”是很好的樣本、下記一段的言詞常被引用：“國民（Nation）が政治意識を持ったとき、すなわち政治化した時に國民と國家両者は合体して、Nation-State（國民國家）形成されました”如果將上述平野先生的言論逆向而言、生存於台灣（國民國家）、具有政治意識的國民就是“台灣國民”、對任何國而言、這種論法都可以成立、但是對台灣就行不通了。為什麼？因為“國民國家”形成的國民、對國家的認同是一致的、這是先決條件、因此無法以此理論來定義“台灣人”、必須從歷史的源頭去追跡引證。在此、根據台灣近現代史、想提出兩組不同的說法來弁証、進而對“台灣人”作一定論。

〈1〉1945年、日本敗戰、放棄台灣主權、當時盟軍遠東區主帥南京政府的蔣介石、憑盟軍統帥麥克阿瑟第一號命令入台接受日本投降（第一號命令的內容如下：在中國（滿州除外）、台灣、及北緯16度以北的法屬越南境內的日本高級將領及所有陸海空及附屬部隊應向蔣介石投降。）。期限3個月弁理受降事宜、最遲也應該在舊金山和約生效前（1952年4月28日）撤軍離台、但蔣介石早已生染指台灣之心、以無人簽署的開羅宣言（1943年11月）及波茨坦宣言（只有杜魯門簽字、1945年7月26日）、欺騙台灣住民、非法侵占台灣。波茨坦宣言的內涵其中最主要的第8條、將其節錄如下：”The terms of the Cairo Declaration shall be carried out and Japanese sovereignty（統治權）shall be limited to the island of Honshu, Hokkaido, Kyushu, Shikoku and such minor island as we determine” 宣言文中、對日本統治權境域作了明確的界定、但是有關台灣歸屬問題、無片言支字。此外、早在1944年入台受降前一年、即已命令陳儀（時任福建省主席）組“台灣調查委員會”全權接管台灣事務。1945年10月25日正式侵占台灣、而於同年12月發表“台灣接管計畫綱要通則”

在此通則文中、對台灣人作出下記的定義（錄自何義麟的2·28事件）“台灣人とは、もともと中国籍を有した住民が台湾で日本への割譲により中国籍を喪失した人々とその子孫を指す”這是代表統治者、當時官方對台灣人的看法。完全忽視台灣人的意願、理念、以及漠視歷史的事實、一廂情願的把台灣人及子孫併入中國人系統。因此在接管台灣一年又4個月後瞬即勃發台灣住民、全民政治革命運動、留下台灣七日民主的記錄。在此政治テロ事件中〈1947年2月28日、2,28事狝台灣人精英約2萬8千人被一網打盡、台灣人的根、台灣人的命脈被剷平了、但是在台灣政治史研究學者的心眼中却留下了台灣人意識以及台灣人族群意識可貴的烙印。

提出這一段史實、目的在說明一項事實、台灣不屬於任何的、台灣是台灣人的台灣。台灣人不是中國人。台灣人、台灣人族群有不同於他族群特有的氣質、這是台灣人歷經2度國籍歸屬的變更、所孕育出來的歷史命運共同體的意識、氣質已經牢牢的烙印在台灣人族群的心靈深處、無法磨滅的、台灣近現代政治史研究學者、特將它命名為台灣人意識、台灣人族群意識。

〈2〉想提出沈建德先生由歷史上的追溯、對台灣人所作的定義。

台灣的歷史
3萬年前左鎮人出現（台南左鎮）
7千年前大坌坑文化出現（高山族出現）

中國的歷史
2萬年前山頂洞人出現
5千年仰韶文化出現

5千年前平埔族出現
1624年荷蘭人佔据台湾、計38年
（宗教感化、但是血統没有荷蘭化）
1661年鄭成功佔据台湾、計22年
（將台湾人改成唐山人）
1683年滿清佔据台湾計212年
（乾隆23年、1758年賜姓、給漢化的台湾人、
按姓給予中国人族譜）
1895年日本佔据台湾、計50年
（1897年5月8日依日清講和条約第5条
將台湾人編入日本国籍）
1945年中華民國侵佔台湾至現在

4600年前黃帝出現
4000年漢族消滅
1911年中國滅清
1945年蔣介石政府侵佔台湾
1949年中華人民共和國建國
1971年10月25日國聯2758号決議、
承認中華人民共和國代表中國
↓
現在中國

依上述年代史跡、很簡單的可以作出下記結論：

台湾人不是中國人、台湾人都是平埔或山胞的後代。自1624年荷蘭人入侵後、歷經鄭氏、滿、清、日本、蔣介石等外來政權的蹂躪、被政策性塗改血統、變成閩客外來人種、經時日久、也忘懷了自己的源頭。

接着將進入主題的第一部分

(1) 台湾人意識的形成與台湾民族意識的起源

台湾獨立的思想與運動、很顯然的乃由第2次世界大戰後才展現出來、有關台湾民族意識政治史的研究、才剛起步的階段、台湾長期處於戒嚴獨裁的政治體制下、言論著作出版受抑壓、並無充分的學術資料可參考、依何義麟先生以及若林正丈先生兩位學者的研究報告、大抵可以歸類出兩種源流〈事實上這也是台湾近現代政治史研究者的主流思想〉

〈1〉 日本殖民統治政策促使台湾人意識形成

1895年4月17日依馬關條約、滿清把台湾以及澎湖割讓給日本。6月17日日本政府隨即設置台湾總督府、施行殖民地近代化政策、拜殖民地施策之賜、促使台湾人統治制度的實現。以此為基盤、屬於台湾人的政治、文化共同體不是很明顯、但是確實存在定著於台湾人的意識規矩中、另一方面、民族自決的思潮方興未艾、台湾人深受衝擊、自覺是台湾的主体、萌生以台湾人為榮的自我主体意識、很自然的隨着時潮的演進、日趨顯着、明朗化、此共同體意識即是台湾人意識的源頭。

有關台湾人意識形成、簡焜仁先生（社會學學者）有一段扼要的解說、其原文如下：“台湾總督府による近代化政策と台湾住民による日本への抵抗の過程で、土地意識〈Territorial Identity〉と民族意識〈Ethnic Identity〉が生まれ、台湾人意識が形成されました。”簡單明瞭、很容易理解。

但是此時台湾人意識的理念對日本人而言是很明確、完全是以台湾民族為主体的主權思想、對中國而言則混沌不明、困惑於中華民族模式的巢窠內、由下述黃昭堂先生的一段言論可以得到佐証。“台湾人意識は『民族』の下位意識であり、それは台湾民族意識に昇華する可能性を秘めながらも日本民族のなかの台湾人、中華民族のなかの台湾人にとどまる可能性を持っていた。つまり台湾人というIdentityが確かにあった、しかしNational Identityが確立されていな

い”、夾雜着中華民族意識型態的台灣人意識乃是1930年代1940年代台灣人意識的特徵。

〈2〉 明確的排除中國、以台灣人為主体的理念、思想、係促成台灣民族意識形成的第2個源流

1945年10月25日蔣介石政權非法侵佔台灣、令陳儀以台灣省行政長官公署長官接管台灣、實施訓政國民統治政策。所謂訓政、實質上就是蔣介石南京政府由1928年~1947年、近20年間國民黨一黨獨裁、以黨治國的專制政治施策。舉凡教育、文化、經濟、人事制度皆着眼於脫台灣化、加速中國化的政治運作。當然以此由上而下中國定式化的國民統合施策、無法取得台灣住民的理解與贊同、因此在接管台灣一年又4個月後〈1947年2月28日〉勃發了台灣全民政治革命運動〈2.28事件〉。2·28事件，表面上的導火線，只是取締非法香煙買賣的槍擊斃命事件，實際上，其內涵乃是台灣意識與中國意識相對抗、政治化的具體顯象。不平等的相互關係，國家權利資源被壟斷，族群意識劣質化的危機感，促成台灣人族群對抗中國的台灣民族意識的形成。

上述文面用詞上，三番兩次提到族群意識（Ethnic Consciousness），為了正確表達觀念，想提出王甫昌先生（社會學學者）在1998年對族群意識所作的注釋：

族群意識：處於劣勢的族群現象。

是民族意識的前身階段，也是必要的先決條件。經政治化的運動過程（如2·28事件），導引出民族意識的形成。

“知覺自己所屬的族群（Ethnic group）被置於不利的狀況下”，包含下記3種內容。

- (1) 在同一社會中，個人所屬的集團與其他集團相比較，知覺上有意識的差異。
- (2) 自覺自己所屬的集團，被置於不公平、不平等的處境下。
- (3) 因(2)而發出的政治化行動。（亦即族群意識的政治化，促成國家民族意識的形成。）

台灣是多重族群的社會，台灣人族群意識如何顯彰、脫穎而出，其中族群意識的活性化與長期存續的問題具有關鍵性的地位。台灣人歷經2度國籍歸屬的變更，促成台灣人意識、台灣人族群意識的形成，因此對台灣而言，在解釋族群意識的存續與活性化的問題時，不適用原初主義（Primordialism），以境界主義（Boundary approach）來引述比較恰當，亦即台灣人族群意識不是原初、原發的，為了長期存續、維持它的機能，族群的領導階層（即elite層）一方面必須穩固團結內部成員，強化族群的特徵與意識，他一方面對外政治目標更須一致，不斷的再形成、再組織化，以應變社會的衝擊與競爭。

身為台灣人的一分子，有這分責任與義務來傳達並廣布台灣人的命脈——台灣魂、台灣人意識，尤其是在這歷史性關鍵時刻裡，個人才學疏淺，非歷史研究者、亦非政治研究者，僅憑着一股熱愛台灣的情潮，使命感的驅使，大膽的刻下幾章“心頭話”，如果能牽引出共同的心思，那就更圓滿了。大抵上主題的第一段，到此作一休止，為了達到獨立建國的最終目標，台灣人族群如何進行政治化開爭，台灣近現代政治史研究學者們又是以何種眼光角度來論述，留待第二段落來說明，謝謝。

台灣人意識的形成以及台灣民族意識政治化的過程〈續〉

(二) 台湾民族意識政治化的過程

分成3個階段來探討台湾民族意識的演進。

(1) 海外反体制派的台湾獨立運動：

1950年代，“白色テロ”期間，台湾內反体制活動初萌芽階段，即被連根摘除。台湾人歷經2度歸屬的變更，相互關係的不平等（與統治者之間），孕育出台湾人意識、台湾族群意識，但是這並非以台湾人為主体的台湾民族主權獨立的形成，在2·28事件後，中國人對台湾人變本加厲的迫害彈壓，才是重要促因，但是此民族國家意識理念，在台湾舞台上全面被壓制，無法認清。

台湾民族意識言論的確立，主要源由海外，首先是以日本為據點，其原因乃由於殖民統治的關係，2次大戰中，歷經台湾民族意識思潮洗禮的世代，多數居留日本。

例如：1950年廖文毅、邱永漢等“台湾民主獨立黨”〈台湾民本主義〉

1959年王育德等“台湾青年社”以台湾青年刊物宣傳鼓吹台湾獨立運動。

1967年史明“獨立台湾會”〈台湾人400年史〉

在戒嚴令解除前，對台湾獨立思想及運動，造成很大的衝擊。1970年代後，日本國內強化壓迫台湾獨立運動，再加上美中日益接近的危機感，據點遂由日本漸次移轉至美國。1970年，歐美的台湾獨立派團體與日本台湾青年獨立連盟合同成立“台湾獨立建國連盟”，往後此團體成為海外台湾獨立運動的母體。

1967年，台湾出身的國際法學者陳隆志先生與美國學者ラスウェル合著“台湾、中國與國際連合”，主張在國連監視下，台湾經由公投而獨立，與中國共同加入國連。

在言論上，大而言之，在日本是以歷史的論點來推演，在美國則以國際法為依歸，展開自決論。

(2) 台湾內反体制勢力的集結、主流意識的確立：

1970年代後半，隨著戒嚴令的解除，反体制勢力（民進黨）集結形成，透過地方公職選舉，民進黨正式踏入台湾政治禁區。1979年12月10日美麗島事件，引爆了民主與獨裁政治鬭爭的信管。（美麗島事件：民進黨精英，藉美麗島政論雜誌，以雜誌社組織的方式對抗國民黨威權體制，遭受全面彈壓的政治事件。）當時政治鬭爭的目標與理念，僅止於自由、民主、以及國家權利，政治資源公平的再分配，未涉及民族、國家意識型態理念的層次。但是事件後，對台湾人大肆逮捕，行政治人權迫害，導致台湾民族意識正式抬頭公然對抗中國民族意識，接著對美斷絕外交關係，國際上孤立的衝擊，更加速內部的團結穩固，1982年9月28日民進黨發表了“台湾的前進由台湾住民自決”，從此台湾民族意識便成為民進黨共同的政治主流意識。

在文化、歷史言論方面，1983、1984年代黨外雜誌上已廣泛的出現台湾意識與中國意識的論爭，以台湾人400年的歷史是外來政權統治下的苦難史來批判法統體制，訴求政治台湾民主化，繼2·28事件後，台湾人族群經上述台湾民族意識政治化的過程，促使台湾民族國家的意識型態更趨定型。

(3) “中華民國第二共和制”準體制的形成

1990年代，後繼蔣經國的李登輝前總統主導的憲政改革，才全面展開台湾政治民主化。

1991

～1992年，萬年國會改選，1996年總統直接民選等，這一連串民主化的改革，促使台湾政治

權利正統性的基礎，由国民党堅持的“法統”改變成民主選舉方式，亦即國家權利正統性的基礎台灣化了。不過國體仍然包容於中華民國體內，並沒有台灣國家化，此特殊的民主化過程所引導出來的新台灣國家體制，若林正丈先生把它稱為“中華民國第二共和制”。

台灣民族意識經上述3階段的演進，已穩固成型，但是期待以台灣國家建國的最終目標、內外仍然矗立着許多障礙。內在方面，隨着一連串民主化的改革，部分台灣化，但是國家權力根幹的部分——軍情、文化、媒體系統，仍然浸透著中國意識，國民依然處於不同意識型態衝擊的版塊上，議會制度形成了，政黨政治制也明確化，但是政黨只是被運用於族群對抗的工具，而非提昇國家政策制的運作，也就是說有政黨政治的實體，但是無法期待政黨政治競爭的民主政治正常的發展。外在方面，一個中國，國際規約的束縛，以台獨為綱領將成為民進黨沉重包袱，因此實際上在政治的運作上，也只有將台灣民族意識的理念擱置，而與中華民國體制妥協，此即第二共和制準體制的由來。

台灣民族意識的抬頭，相對的也引發了外省族群政治化動員，很自然的加深了彼此意識型態的對立對抗。國民國家的國民是附有主權的，具不同意識型態的國民，在同一政治環境基盤上作政治運作，在原理上終必分極化，但實際上在台灣目前政治舞台上，並沒有出現如此強烈分極化的現象，其理由如下：

- 1 對抱持中國意識的外省人而言，目前台灣仍然是存在中華民國體制下，外省人族群，在政治舞台上，仍然具有政治資源與發言的政治勢力，雖有不滿，尚可忍受。
- 2 對抱持台灣意識的本省人而言，存在中華民國體制下的台灣政治實體，日益台灣化，雖不滿，但是只有忍受，等待變天。
- 3 持觀望、維持現狀、中間意識型態的游民，仍居多數。

此後，未定的國家民族意識的歸向，雖受此許變數的影響（如國際上，美中政治的角逐，以及長期滯在中國的台灣住民的增加，一旦關係深化後，對台灣社會的影響等），但是只要台灣政治實體持續維持獨立，台灣民族意識持續發展自律性的歸結是必然的結果。

認定 NPO 法人思維導入の考え

中里 憲文

日本台灣醫師連合（JTMU）が設立してから2年が経ちました。大分組織が定着し、活動も盛んに行ってきました。これからは更に様々な有意義な事業を行う予定ですが、会の会計報告を見ると資金面は非常に厳しい状況だと思われます。これからの事業や活動を成功させるには会員の皆様の熱心と資金面の奉仕がなければ成り立ちません。JTMUの運営をもっと透明性のあるものにするためには、連合組織と資金上で会員や一般市民、企業が気楽に寄付できる環境を作る必要があるのではないかと私は思います。私はこれをもっと研究する必要があると感じています。

認定NPO法人にするためには会の目的を、日本と台湾両国間の人々に対し保健、医療、福祉、または教育面の協力を図る活動、及び文化、芸術などの面での交流を図る活動をこの法人が自ら先導的に事業を行い、又、それらの活動を行うものに対する支援に関わる事業を総合的に行い、両国間の親善の進展を図り、もって日本と台湾との友好に寄与することにさらに重心をおく必要があります。以下に認定NPOの立法趣旨、理念、税制上の優遇措置など、NPO法人のメリットとデメリットの基本知識を転述し皆様と一緒に考えて研究したいと思います。

NPO法人：

ボランティア活動をはじめとする市民が行う自由な社会貢献活動としての特定非営利活動の健全な発展を促進し、もって公益の増進に寄与することを目的として、法定要件は次の2点が要求されています① 特定非営利活動が主たる目的であること② 営利目的でないこと。その事業活動に関し、以下の活動を行っていないことがあげられます。(1) 宗教の教義を広め、儀式行事を行い、及び信者を教化育成すること。(2) 政治上の主義を推進し、若しくは支持し、又はこれに反対すること。(3) 特定の公職（公職選挙法第三条に規定する公職をいう。）の候補者（当該候補者になろうとする者を含む。）若しくは公職にある者又は政党を推薦し、若しくは支持し、又はこれらに反対すること。

認定NPO法人に関する税制上の優遇措置：

個人や企業がNPO法人に寄付をしても、税制上の優遇措置はありません。しかし国税庁長官によって認定NPO法人（認定特定非営利活動法人）となった団体に寄付をすると、次のような税優遇があります、1.認定特定非営利活動法人に対する寄附金に対し、所得控除（個人）と損金算入（法人）。2.認定特定非営利活動法人に対して相続財産を寄附した場合の相続税の非課税。

個人が寄附した場合（平成13年10月1日以降）

個人（所得税）		控除限度額
国又は地方公共団体 ・ 指定寄附金 ・ 特定公益増進法人 ・ 政党等 ・ 認定特定非営利活動法人	<u>特定寄附金</u>	[合計所得の25%-1万円] まで所得控除可

内国法人（公益法人等を除く）が寄附した場合

法人（法人税等）	損金算入限度額
・国又は地方公共団体 ・指定寄附金	全額損金算入可
・一般寄附金 ・特定公益増進法人	損金算入可（限度額有 ^{注1} ）
・認定特定非営利活動法人	一般寄附金と同額まで損金算入可（一般寄附金とは別枠）

特定非営利活動とは、次の17分野の活動で不特定かつ多数のものの利益の増進に寄与することを目的とするものを言います。

- 1.保健・医療又は福祉の増進を図る活動
- 2.社会教育の推進を図る活動
- 3.まちづくりの推進を図る活動
- 4.学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動
- 5.環境の保全を図る活動
- 6.災害救援活動
- 7.地域安全活動
- 8.人権の擁護又は平和の推進を図る活動
- 9.国際協力の活動
- 10.男女共同参画社会の形成の促進を図る活動
- 11.子どもの健全育成を図る活動
- 12.情報社会の発展を図る活動
- 13.科学技術の振興を図る活動
- 14.経済活動の活性化を図る活動
- 15.職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動
- 16.消費者の保護を図る活動
- 17.これらの各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動

JTMUの活動分野は上述1,4,6,7,8,9の活動に該当します。よって認定NPO法人を申請する資格を持っています。先ずJTMUをNPO法人に成立してから所管轄税務署を經由して、国税局の認定を貰えます。しかし認定NPO法人になると色々な制限も付いてきます。例えば法人税の納付、事業報告書、賃借対照表、収支計算票、寄付者の名簿、等等の提出や公開する義務も出てきます。また経理も経費も一層煩雑になります。

以上を踏まえ、JTMU活動の一層の発展を目指し認定NPO法人制度の適切な運用で会の組織力と財政力を増強させ、より一層認定NPO法人のメリットを適切に運用することを心がけて、皆様の金銭奉仕が何倍も効率の上がる環境を作り、認定NPO法人の立法趣旨、理念などの基で、日本、台湾、自由な社会、あるいはこの地球村に貢献できる活動として発展を促進するか、あるいは今までの通りで会の財政経営と運営方法で発展する方法かを皆様一緒に考えていただきたいと思います。

「日本台湾医師連合は貴方の力を待っています」

会計担当者 毛利 忠

今から4年前、我が祖国台湾に新しい政権が誕生した際、在日台湾出身の医学界に席を置く者や医療に携わる医師達が語り、私達を育ててくれ祖国を想い、そこに住む愛する親兄弟等の親族や親愛なる友人達が、新しい国造りに懸ける意欲を感じて、我々ももっと力にならなければと、日本台湾医師連合を創立したことは、記憶に新しいところです。

この連合が発足してから早くも3年目に入りました。その間、会員の皆様のご協力とご支援によって、会もヨチヨチながら少しずつ歩み始めましたが、皆様の中には執行部に対するご不満やご意見があることも承知しています。時には、大変厳しいご批判を頂いたこともありました。

私達は、普段は忙しく診療に追われ、会の行事は休日しか出来ませんが、会員の皆様のご協力で幾つかの行事を実施してきました。私達は政治的な活動は素人で不慣れですが、一生懸命かつ献身的に活動して参りました。今後も色々なアドバイスやご意見を頂戴しながら、初心を忘れずに活動するつもりですので、どうぞ宜しくお願いします。

この2年間の活動を振り返りますと、決して多いとは言えませんが、色々なチャンネルを活用して、日本の友人に理解して貰うよう地道に頑張って参りました。例えば、講演会において台湾のことを認識又は理解して頂きました。又、毎年台湾の医師連盟との交流会で親善を深める中で、台湾の国際地位を高めることができました。

しかし、去年は中国のSARSにより、台湾は不幸にも莫大な経済的損害を被りました。又、中国の妨害でWHOからの適切なアドバイスも受けられませんでした。これまで台湾が民間組織としてWHOへオブザーバー資格での加盟を申請してきましたが、中国の否決権の発動によって否決されました。幸い、昨年からは日本とアメリカが、台湾の加盟について公式に支持する旨を表明しました。これにより、我々の夢実現が一步前進したことになります。とは言っても、最近の新聞によりますと「中国は陳水扁政権に対する本格的な経済包囲網づくりに乗り出した更ば経済的手段によって台湾独立を阻止すべきだ」などと煽っている、と報じ、余談を許さない状況になっています。

これからも、以前に増して多数国の支持を得られるよう努力しなければならず、会員一同一丸となって活動を活性化しなければなりません。

その為には、多額の軍資金が必要であります。皆様から会費を頂戴していますが、どうか大口のご寄付（ドナーシップ）を寄せられますよう、心から期待しております。皆様一人一

人の力強いご支援とご協力が、日本台湾医師連合の活動のエネルギー源となりますので、是非、お力を賜りますようお願い致します。

2004 台湾総統選挙紀行

劉 文玲

台湾総統選挙のため、三月十九日午後四時十分の飛行機で二泊三日台湾に里帰りした。台北に着いたらもう夜の九時前だった。タクシーの中で総統銃撃された事を知り、幸いに大事に至らなかったが心の中で少し不安を感じた。その夜すべての選挙活動を中止したため、台北の夜がとても静かだった。

テレビで連戦は陳総統を見舞いに官邸を出てきたら、報道の質問に“国民はみんな理性である事を信じ、明日の選挙に影響がないと思う”。心の中で連戦は四年前より頼りのあるリーダーとして成長したと感心したが、しかし十時半過ぎ国民党選挙本部での正式記者会見で目から鱗が落ちるような発言があった。広報部長のような女性は銃撃事件が自作自演、証拠もないのに病院がカルテを捏造したデマを流した。つまり銃撃ではなく、病院の医師達が作った刀傷で、それを銃撃の傷と見せかけたという事。しかしあとから病院関係のみならず、総統のsp、警察、鑑識、司法関係のたくさんの人々が提出した膨大な証拠などからわかるように、もし銃撃事件を自作自演なら、どれほどの人が関与しなければいけない。それはまったく隙なく成功するのが不可能で分かった。もし犯人を買収したなら、進行中の車で、しかも防弾ジョッキを着用してないのが、無謀すぎる。

でも私は一人の人間として、選挙のため、人と人との思いやりや信頼もすべて失う事が非常に悲しく思う。実は家のお手伝いさんは戸籍が雲林県にあるため、本来投票する予定がなかったが、そのことを知り、翌朝市場で十何人に陳水扁に投票するようと呼び掛けた。しかも義姉に休みを告げ、昼前に投票のために、四時間の路程のかかる田舎にトンボ帰りの！彼女は高い学識も教養もなく、ただ一人の人間として当たり前の感情でそうした！銃撃事件は中間選民にどこまで影響を与えたか？予想できないが、その影響を最小限に食い止めるため、国民党がデマを流したのでしょうか。が、もし銃撃事件が選挙に影響を与えたなら、陳水扁への同情票ではなく、国民党の流したデマはいかにも人間性が足りないことが台湾人の怒りを誘ったと思う。

投票を終えて、私は帰りのお土産のため、買い物に。五時頃家に戻り、義姉夫婦とテレビの開票速報番組を見た。投票は四時まで、一時間もたっていないのに、たくさんテレビ局はすでに四百万票近くの結果を、しかし民視や公共テレビは(中央選挙委員会のデータに基づいた発表)また百万票くらいしかない。人間の心理はどうしても早く結果を知りたいから、つついチャンネルを回しながら速い結果を見てしまった。しかも不思議なのは、開票結果の速いテレビ局は必ず連戦が大幅でリードし、開票スピードの遅いほうが必ず陳水扁のリードだった。

それは視聴率を狙うカラクリだった。つまり、四時頃投票を終えたまもなく投票者数が千三百万あまりと公表したので、勝者は過半数の六百五十万以上を獲得しなければいけない。だから視聴率を稼ぐため早い時間帯で六百万票を抑えとけば、あとから選挙委員会のデータを届いた時、調整すればいいだ。台湾では“灌票”という。だから最初の一時間半に開票スピードの速いテレビ局は六時過ぎると票数がほとんど増えない。もっとでたらめなのは国民党寄りの中天テレビは一時連戦

が七百万票近くになったのに、コマーシャルのあと六百万票を“戻した”。だから“作票”したのは、テレビ局が視聴率のための数字操作だった。早く開票を終えたのは人口の少ない南部の農村地区だった。だから民視テレビや選挙委員会の集計では初め南部の支持が強い陳水扁は十万票以上の優位にたっていたが、台北など大都會の開票結果が出たにつれ、票差が縮めた。逆に国民党寄りのテレビ局は連戦の勝利を予想して初めに連戦の絶対優勢を作り、一時期八十万票差をつけたが、——どこからの情報がまったくわからないが——時間を経つにつれ、各テレビ局は選挙委員会の開票結果に近づくため、陳水扁の票を速いスピードで増え、連戦の票が増やさないで訂正したわけだった。このカラクリも分からず、連戦の支持者は敗選後“作票”（票を取り換えられた）だと大騒ぎした。実は作票したのはテレビ局なの！視聴率のため開票結果を操作し、社会責任がまったくないマスコミに怒りを覚える。

トキドキして、夕飯も食べられずに固唾を飲んで結果を見守っていた。八時過ぎすべてのテレビに得票が増えないままで、陳水扁は三万票近くで差をつけた事を確認した上、義姉夫婦と一緒に民進党の選挙本部に行った。本部の近くに着くと花火をあがっている、喜びを満ちている人々……アー勝ったなあっと実感した。

本部前の広場に着いた時もう九時にまわった。民進党の内閣は挨拶しにきたが、党の重要な幹部と陳水扁本人が出てこなかった。広場で連戦が負けた事を認めない耳語が広がってきた。知らない人から“帰りに気をつけて、持ってきた民進党の旗などを隠すよう”と忠告してくれた。台湾人の忍耐としたたかさに感心した。いくら待っても陳水扁が挨拶しにこないの義姉夫婦と帰ることにした。帰りの地下鉄ホームで待っているのは全員陳水扁の支持者だから、一体感があり、喜び合いながら話を交わした。しかし一、二駅を過ぎ、皆はシーとしてきた。長年日本に住んでいる鈍感な私は乗り換えの時、義姉と選挙の話をしてしていた。三、四メートル先に一人の若者はこっちに向かって大声で選挙不公平だって怒鳴っていた。義姉は連戦の支持者がまた四年前のように暴動を起こすのではないかと心配して、“早く家に帰ってテレビで連戦陣営の動きをみよう”と。

あれから連陣営は選挙結果を受け入れないと支持者の前に宣言し、選挙が不正のため票の再集計とか要求した。そして深夜選票を差し押さえるため、高雄に親民党の国会議員丘毅は街宣車の上に乗って、裁判所の門を何回もぶつかり、突入しようと、同じ親民党の議員沈智恵は台中で群衆をつれて、裁判所のガラスを割れ侵入して、台北も、桃園も各地の裁判所と総統府前に群衆を集まって、騒ぐ……一晩心配で朝の四時までテレビを見ていた。義姉はテレビの前で一夜も寝なかったそうだ。

二十一日の昼、陳水扁の当選の喜びと二、二八 human chain 手護台湾の感動を分かち合うために、家族が集まった。そして勝ち率なんと0.228、二万九千票で勝ったことがわかった。二、二八の英霊は台湾を守ってくださったのかしら。陳水扁はこの四年間けっして誇るような政績を残っているわけではないにもかかわらず、百五十万票も成長したのは、台湾人意識の高まりだと思う。

食事の後荷物をまとめて、空港へ。総統府とは目と鼻の先の距離にある実家を後にする時に、総統府の前に抗議の人がいちだんと増えたことを知り、陳水扁の当選を喜んでいる反面に、これから台湾の政局を心配して故郷を後にした。

2004, 4, 30

「天助阿扁、天佑台灣」 — 大選前後の台北紀行

布施 政庭

國家的前途、總統大選的決定、就如同人生的命運一般、充滿了未知數、狂歡與落寞、幾家歡樂幾家愁、不幸跟著來的幸運、自信滿々の却成了敗軍之將、靜坐街頭、遙々望著那憧憬多年的雄大總統府鮪魚肚「護主有功成了「總統肚」名嘴」成了「禍嘴幹掉兩名主席後、又追殺了兩名主席、福禍由天、由不得人「阿扁有福得成王、連宋無緣去了。」

〈選前的激情〉

在回台的飛機上、3月中旬的旅遊淡季、却坐滿了旅居海外的僑胞、每個人臉上都有選票的味道、興奮中帶有期望、雖然看不出是藍臉綠臉、但是在出了海關的瞬間、就像京劇的變臉一般、立刻分出顏色、旅行包上、背包腰帶上插滿了旗子、大半是藍營、筆者輸人不輸陣、拿了三面小綠旗高々地擎起、邊走邊搖幌、迎戰出口玄關一大票拿著大國旗吶喊的「敵軍剛開始我有点怕々、「革命未成、身先死還好、經過台灣這幾年來的政治調養教育、讓我這個死忠的綠軍、安全地通過敵陣。

三月十九日民生東路前、民進黨競選總部前後的兩條大街遍插綠旗、走向總部前、碰到同黨的綠色散兵游勇、大家互比大拇指、微笑擦身而過、志同道合也。總部內外人山人海、氣氛沸騰、在高挑的屋簷下、有舞台、激勵歌唱會、數台大型的電視螢幕、播放選情戰況、二二八牽手護台灣的影片、內外旗山旗海、報到總部、海外扁友會服務處前大排長龍、每人拿著綠色大旗、身披綠色絲帶、頭戴扁帽（還好只有帽緣是綠色的、否則代誌大條了！）臉上貼著「公投台灣第六、頗有足球賽前的氣氛、海外扁友會的僑胞們每人發放一套深綠色外套、是死忠的深綠色、大家專程由國外飛奔回來、放下工作、自掏腰包花大錢買機票、扛著大旗、自甘情願地作搖旗吶喊的馬前卒、想々也真好笑！為的是什麼？為了心中理想實現的期望、在藍營氣勢高漲下、不服輸的心態吧？在總部裏有日本扁友會會長吳景林的熱心招待、豐田經學先生夫婦、吳青洋先生夫婦、蘇沽訓先生以及數位先輩、大家歡聚一堂、綠兵綠卒的裝扮、相看兩哈哈々！總部內外有許々多々熱心的志工、不眠不休地工作、服務熱忱令人感動、筆者由日本帶來五十瓶「黃帝液」及筋肉酸痛貼布數十封、呈給吳景林會長轉交他們、聊盡心意。

下午約2時許、大隊人馬由總部出發、繞街遊行前往中山球場、參加競選晚會、做選前的最大造勢活動、著深綠色的「海外扁友會」歸國僑胞有近千人打前鋒、走在隊伍的最前端、旗海飄揚、浩々蕩々、人々興奮、士氣高昂、手搖著大小綠色旗、每到一個十字路口、就群起大聲喊口號「阿扁仔凍蒜」、右手拿大旗飄揚、左手比起大拇指、過往人群、計程車或自用車有人伸出綠旗或比起大拇指、這邊的隊伍就更加興奮、更用力大喊、大搖綠旗回應、相當有趣、尤其有很多計程車司機、用旗、絲帶等綠化車子、遇上我們的隊伍、喇叭大鳴、這邊也興奮地大叫、好不壯觀。但是相反的、沈默的台北市民却佔絕大多數、無言無表情地注視著我們的隊伍、儘管這邊大聲地呼喊、對方却無動於衷、令人莫測高深、有藍營的支持者對著這邊比起倒大拇指、這邊隊伍裏就有人很不服氣、也倒豎V字回應、相當情緒化。

遊行到了下午三時三十分左右、突然在大路中央有一年輕女性隔著車窓對著我們大喊「阿扁仔被鎗擊了！」剛開始還聽不大清楚、等弄明白了、群體愕然、驚慌得不知所措、在不知阿扁仔生死前、實在有說不出的恐懼與憤怒、隊中有人忙打手機連絡、消息混亂、莫說紛紜、一會兒說是鞭砲所傷、一會兒又說阿扁、呂秀蓮同時受傷被送往奇美醫院急救、在不明真相與生死的情況下實在是相當恐慌的、這下台灣要發生暴動了！整個隊伍行進速度減緩而沈重、但是以後好心的過往

路人也間接地傳來許多令人振奮、兩人只受輕傷的好消息！大家才安下心繼續遊行、更加大搖綠旗、更聲嘶力絕地大喊「凍蒜！」這下可好了、阿扁被鎗擊不死、一定會贏得許多同情票、穩贏了！

大隊人馬浩々蕩々地開進球場，內外已有許多的團隊聚集合流在廣闊的看台上，台灣各地的助選團、海外的扁友會人馬，各個旗誌飄揚、一片綠色旗海，人聲、廣播聲，聲勢壯大令人動容，球場中央敷設了圓形大舞台，一面現場轉播大螢幕，震耳欲聾的巨型喇叭，氣勢驚人。由於發生了意外的槍擊事件，為了怕進一步發生暴動事件，民進黨與國親兩黨協商同意取消各自的造勢晚會，主持人謝志偉、黃菊等人為了安撫大眾，數次說明阿扁、呂秀蓮無恙，為了台灣的和平，我們必需以容忍與愛心來看待這次事件，期望老天疼惜台灣，大家相安勿慄，今天的晚會取消，盼望大家靜々地各自離開，回家好好休息。數位主持人、立委輪番上場談話、唱詩歌、唸祈禱文，大家主動地手牽著手，合唱起「嚙当嫌台灣「阮的母親是台灣」，許多人都激動地淚流滿面，在那樣動人的場面，年令、社會地位、海內海外都已不重要了，真正地大家成了一條心，為了台灣的將來，台灣的和平、進步，發自內心的容忍與愛心是必要的。

<開票之夜>

三月二十日投票時間結束後，就陸々統々地由各電視台立刻轉播開票實況，台灣不愧是列入民主國家陣容，開票速度之快，約三個小時就可以立判輸贏，下午五時許，我在士林夜市廣場上，買了一條俗稱「柯林頓香腸」，邊吃邊看廣場大樓上方的電視大螢幕，觸目驚心地注視兩方陣營的得票總數，阿扁一路落後30~50萬票，看了半個小時毫無起色，阿扁被挨了那槍真是有過衰，同情票沒有發揮預想的威力，今後，「連總統」宋副總統」是個什麼局面？對岸老共真的是嘴笑得不能合攏，下巴脫白了！想著想著真是無趣而像失落了什麼，電視螢幕上綠營靜巧々の，反觀那邊旗海亂飄，瓦斯喇叭亂鳴，似乎當選已確定了，想々這次帶著長男與小女兒回台灣，好歹也要讓他們見識見識在日本看不到的選舉熱情，就帶著他們到綠營總部看々擁扁群眾落淚的鏡頭也罷了！經由捷運到達長春東路附近下車，接近總部前，竟然是遠處沖天炮大放，瓦斯喇叭亂鳴，不是輸了好幾十萬票了？大家在興奮什麼？問了迎面而來的綠營支持者，才知道反敗為勝，現在已贏了將近5萬票，進入總部現場前管制區，人潮洶湧，黑压压的人群，越接近總部越是擁擠不堪，看不到總部前現場實況真是不甘心，沿著人牆，邊走邊問得票數，贏了4萬了！5萬了！四周瓦斯喇叭震得兩耳欲聾，特別是主持人謝志偉與蕭美琴滄聲激勵時更是旗海飄揚，喊聲震天，得票數領先數字不大，更是令人耽心，但是一路下來，阿扁的票數穩定成長，一時軍心大振，我帶著長男擠進大路與巷口交差處就止步，雖然只能看到螢幕數字板，但是萬一現場發生緊急狀況，越在中央部位越是危險，若出現了動亂，好歹也有巷子可以逃生，吩咐內人及小女兒在遠處觀看些時就自行回飯店休息，長男站在我傍邊，好奇的聽著四周站立的人群七嘴八舌地發表、喧嘩，透過他老父的翻譯，聽得津津有味，群眾中有人拿著牌子來回搖蕩，寫著「老天有眼！陳文茜又幹掉了兩位主席！」也有位熱心的白髮長者，戴著耳機，「傍受」敵營的實況，邊聽邊唸給大家聽：「連戰等一下要發表選後感想了，大概已認定輸了！」

「連戰說：『這次選舉不公平！我要宣布選舉無效』」聽得周圍的人們「幹」聲不絕！

晚上七點半左右，在幾乎確定了阿扁贏定了的時候，主持人輪番上陣感謝大家的支持，天佑台灣，隻字不提藍營說的憤慨的話，怕引起激動甚至暴動，而一直強調我們要有包容的心，今後不要論藍說綠，我們都是台灣人都吃台灣米，大家必需發揮同胞愛，到了十點鐘左右，總部四周，人聲歡騰，在大路的兩傍圍起了歡迎阿扁的人牆，這時人們更是興奮到了極點，看得我們這些久未經歷台灣選舉狂熱洗禮的海外人心驚胆跳，萬一再發生一次槍擊事件，這裏不是成了暴動的中心？阿扁現在來到這麼擁擠的現場是否不太適當？想著想著，急々拉著長男離開現場，在途中遇到了扁友會前會長吳青洋夫婦，死忠地守著路口要見阿扁一面，我與他們歡談一陣後，就自行離去返回飯店休息。

〈省思与感言〉

(1) 近十年来的台湾，從李登輝前總統的民主與思想開放的啓蒙運動以來，已成熟為多元的社會，雖然擁扁的深綠族群由三、四成到了今天的五成以上，但是也有五成偏向連宋，即使是生活在同一屋簷下的夫婦、親子與兄弟間也各有各的支持者，有人討厭宋楚瑜，但是偏々有人說宋楚瑜是治國良才，有人喜歡阿扁，偏々有人厭惡他的言行不一致，騙人騙選票。

(2) 互相不信任的社會，例如槍擊事件，藍營或是名嘴群，說阿扁是為了選票而自導自演，這樣的不負責任、不摸著良心與故意漠視判斷意志力的行為，實在是令人不可思議而感到悲哀的，這個行為只是因為討厭阿扁這個人而已，他所做、所發生的事都可以往壞的方向去思考、而認為理所當然。由槍擊現場的阿扁、呂秀蓮的表情與前後的動作來看，如果說是自導自演的話，我們建議阿扁與呂秀蓮去美國好萊塢當電影明星！這麼傑出的演技，只當台灣的總統、副總統實在太可惜！

台灣，在舊有極權專制的長久統治下，養成了大家互不相信的民族素養，人々但求自保，國家、政治家不能相信，親友間也多疑心疑鬼，怕傷害了自己的既得利益，不欣賞別人的成功，而對於他人的缺失却大加宣揚。

(3) 如果 如果阿扁不叫扁這麼受「土」台灣人愛的名字；如果阿扁不受到槍擊；如果那兩顆子彈偏了方向；如果國民黨推出「連馬配」；如果那「幹掉四個主席」的「阿西」不那麼「多嘴」的話；如果没有双「李」——李登輝、李應元的「二二八牽手運動」；如果國親那兩位仁兄長得像馬英九的哥々一樣帥的話。

世局如棋，人生如戲，有了這麼多的巧合，造就了人世間的種々因緣。

(4) 北風與和煦的太陽 嚴冬刺骨的北風只會令人縮緊衣領，多加防風的衣著；相反的，和煦的太陽却照得人全身暖洋洋，親和而充滿幸福感。對岸的領導人實在應該多點這方面的幽默感，先伸出手握々阿扁又何妨？恭維台灣人一兩句話，總比叫人「懸崖勒馬「只有兩條路可走」」更叫台灣人窩心，不要說「世界誰理台灣」那樣絕情的話，改以「泱々大國」的風範以對的話，窩心的台灣人也是蠻有感情的。

(5) 台灣人要什麼？我們不是政治家，不懂得統一、獨立或維持現狀有什麼好處壞處，但是我們打從心底，不希望台灣成為「世界的孤兒」，我們期望被人尊重，幾百年前為了避開中原的天災戰禍，遠涉「黑水溝」離鄉背井地來到這安身立命的島嶼，創造了許多「台灣奇蹟」，我們珍惜這分成果，我們不想再被無謂的政治騷擾，再度捲入中國的紛爭，我們厭惡近代史發生在大陸的許多政治禍害，死的是一般平凡的百姓，而且數字是以千萬人計算的慘禍，台灣沒有這樣的成本與人口。

我們深盼兩岸的領導人，發揮超人智慧、寬濶的胸懷、慈悲的愛心，創造兩岸的永久和平樂利，讓天可憐見的兩岸人民，享受一段近代史所從來沒有的幸福。

——（全文完）——

追憶

岡山文章

家父去世後，友人來電話說：「お父さん已經辛苦了89年，也該讓他休息了」但是，我不曉得每天早上醒過來時的悵然若失，還要持續到甚麼時候？！

2月10日晚上回到高雄，深夜做完入棺儀式後，一邊陪靈守夜，一邊回想記憶中父親的點點滴滴。離開台灣20多年，雖然定期回台看望他老人家，還是心裡感到愧疚。不過，望着照片中那溫厚、微笑的臉孔，我想也許他會這麼地跟我說：「不用介意！身在異國，要好好地努力！！」

小時候，住在學校的教職員宿舍，家父總是工作到很晚，我們經常等得不耐煩，去學校接他回家吃飯。昏暗的辦公大樓中，只有主計室還點著燈火，他一個人忙這忙那的，我們都硬把他拉回家，一年到頭，他就是那樣子認真地上班、一絲不苟地處理每天的公務。

家父生性廉潔、公事公辦。每次看到新聞報導「警察破案有功，特別頒發獎金○○元消防隊救火有功，獎金○○元」等，他總是搖頭嘆息。他認為這些工作都是警察及消防人員分內之責「抓到小偷，只是盡了責任而已，為什麼還要領取額外的獎金？」是他的口頭禪。

父親生活儉樸，每天早上只要有一碗飯、幾片醬菜（奈良漬、たくわん）、加上「味噌汁」，就能滿足他。在那個公務員被人說是「吃不飽、也餓不死」的時代，家父總是安貧樂道，在家母的妥善家計管理下養育我們長大、完成學業。除了常帶我們去看電影外，他喜歡喝珈琲、聽日本的演歌唱片，也常收聽收音機的短波放送，隨着日本相聲的抑揚頓挫，他總是哈哈大笑，不能自己。進入大學後，我漸漸地意識到家父有許多獨特的「嗜好」，像大熱天時吃涼麵線，1~2個月一次家母就會端出「カレーライス」和「すきやき」，客人來訪時，家父喜歡請吃生魚片-----，這些「嗜好」的謎，等我來到日本後，全部解開了，對我來說很特殊的事情，其實是他老人家從日治時代留下來的生活習慣，我發現他和其他的台灣人一樣，背負着重重的台灣歷史包袱。

初中時候，我們經常調侃家父的北京話，問他為什麼我們聽不懂的他講的「國語」，竟然能在學校及省教育廳的會議中通行無阻，每次他總是呵呵一笑置之，不生氣也不回答。

去年9月12日，產經新聞登了一則有關我和日本台醫連的報導，裡面提及家父的名字。數天後，有一位旅日多年的台灣人來找我。他看了看我，跟我說：「父子長得很像——。-----邱先生是我的救命恩人。當年2·28事件時，我是高雄中學的學生，危急中，邱先生來通知我及弟弟，開學校後門讓我們逃走，我才能活到今天-----。」

小學時候，每逢星期日，總有一位佛光山的和尚來找家父閒談。他是家父的屬下，也是家父幫忙逃過2·28事件浩劫後，看破紅塵、出家依佛的。這些當年的斷片，讓我体会到當年父親周邊的蕭殺環境、以及活下去的毅力。

這數年來，大家一起去美國縱走洛磯山脈、日本北海道開車旅遊一周、甚至到京都、九州探訪家父的日本老友，敘述舊情。隨着年月的增加，父親不能再來日本，數十年如一日寫日記的筆也被擱了下來，體力漸漸地衰退，進入長期臥病的生活。

前些日子，掛念着面臨大學入學考試的兒子，就寢前去看他有没有蓋好被子，反而被他埋怨了一頓。我默默地回到自己的房間，睡不着，整個晚上，腦子裏只是盤旋着父親的影子，我很想跟他說：「謝謝多年來的照顧，辛苦了！」

丹沢山塊は関東平野の西に座し、首都圏でも大変人気がある近郊の山です。私も住居と仕事の都合上、近年もっぱら丹沢日帰りしか行けなくなった。もう、アルプス縦走は、夢物語のようなことになりました。

丹沢には、それほど険しい道もないし、アプローチの時間も手ごろであって、日帰りハイキングとしては、もってこいです。四季の変化に加え、清流あり森あり、所々に岩場、鎖場があって、少々スリリングを味わうこともできる。何回いっても飽きないです（しょうがなくそう思っているだけかもしれない）。また、少々奥のほうに足を伸ばせば、雲霧深山何処在のような仙人の気持ちにもなれる。まさに、深山幽谷です。日帰り登山の醍醐味は、ここにありとつくづく実感できる。

山が好きな人ならこのような気持ちは、よくわかるでしょう。この山の片思いの気持ちを言葉であらわすには、大変難しいです。しかし、山を愛しても、山は我を愛しません。山で事故たり、けがしたりすることは茶飯事です。それでも懲りず山へ行くのは、やはり少々頭がおかしいと思われてもしかたがないですね。

なぜ山へ行くの？と聞かれて、山がそこにあるから

と、

禅問答のように答えた有名なイギリスの登山家がありました。そもそも、愛山者からそんな質問は出ないです。

意味不明の質問にたいして、意味不明な答えしかないですね。

登山は、よくおじん臭い、汗臭い、汚い、陰気、辛い、ヤボ、孤独とさんざん悪口言われます。山歩きの実態がそうかも知れません。

（とはいえ、たまにドッキとするほどのかわいい娘さんに会ったりする。まあ、例外でしょう。）かつて、私も登山のださいさから少々抜け出したいと思いつつ、ゴルフとテニスをやってみたことがあります。しかし、両者とも私が思ったよりもはるかに難しく、いくらやっても、初心者の域から一步も踏み出せなかった。つい、断腸の思いで山に帰っていった。ひとりマイペースで、大汗をかいて動悸をしながら気絶しそうに歩くのが一番自分の性に合うでしょうと悟った。

初登山は、今でも鮮やかに記憶に残っています。

大学生最初のクリスマス、1週間かけて大武山脈の鬼湖へ行ったことです。生まれて初めての登山なので、勿論これと言ったよさそうな装備も、知識ももっていなかった。今もっている装備と比べたらまさに石器時代の品物と言えそうです。今から考えると、よくそんな貧弱の装備で鬼湖へ敢行したと自分でも感心するほどです。その一週間、私は台湾で最も美しい山野を自分の目で確かめた。神々しい深い森、荒々しい清流、崇拝したくなりそうな夕日、手で取れそうな星星、無垢の月、透き通るような高地台湾土人の子供の瞳、すべてが人生最高の思い出でした。その後、いろんな山へ行ったが、鬼湖での感動を超える山歩きはつい出会えなかった。また、シェクスピアの劇に出てもよさそうな、極限に近い状況に置かれたことに滲み出てくる人間の精神的な脆さ、穢れさ、あるいは反対に崇高な一面をみることができた。

よく沙漠にいくと人間は宇宙を感じたり、神を感じたりすると言われます。私も、哲学者ぶって、真似して感じてみたいと思った。標高1500の頂上から蒼空白雲を眺めながら静かに何かを感じ

じようとした。

感じたのは、飢餓でした。

(2004年4月19日)

急性中耳炎

頌彦 真賢

耳鼻咽喉科最具代表性的疾病莫過於急性中耳炎；中耳炎、顧名思義、中耳腔的發炎症狀。依進化的過程、某些魚類擁有類似的構造；在兩棲類開始可見到中耳腔；人類的中耳腔是以鼓膜跟外界隔離、而以耳管開口於上咽頭。因此要判斷中耳腔的情況、只能透過直徑約9mm左右的鼓膜來觀察。鼓膜在組織學上有3層：外側是外耳道皮膚的延續、中層是纖維束（但鼓膜的弛緩部不具纖維束）、內側是中耳腔粘膜的一部分。診療時、通常要用耳鏡經由外耳道觀察20幾mm前方的鼓膜、看鼓膜是否發紅、鼓膜的混濁度・緊張度、中耳腔內貯留液的有無及性質、來判斷中耳炎的有無及程度。看不到鼓膜就很難確定是否是急性中耳炎、也只好用推斷的了。至於耳管開口於上咽頭的構造本身就是一個大問題、讓人不難想像為什麼中耳炎常是上氣道炎的合併症。

先簡單的復習一下急性中耳炎：三更半夜、沒打扮的父母抱著穿睡衣臉帶哭泣的小孩坐在急診室等候、就是最好的寫照。筆者的個人診所、初診者的約19%被診斷為急性中耳炎、不知其他同業者是否也有同樣的數據。當然可發生於各年齡層、却以小孩居多：有報告是10歲以下的小孩佔一半以上。一般症狀不外乎耳痛、發熱、頭痛、上呼吸道炎症狀等等。沒耳痛症狀的急性中耳炎也不在少數、曾有高達40%的報告。或許這與急性中耳炎的耳痛時間持續得不長（有81%在24小時內疼痛會緩和的報告）、及小兒的不善表現有關係。遇面有疑色的父母：沒發熱耳朵又不痛怎麼會是中耳炎？只好用鼓膜內視鏡的圖像讓他們信服。光學設備也曾幫忙解決不少不必要的誤解。

急性中耳炎的另一個重要症狀是發熱、特別是治療不徹底時會持續比較久。在此必需一提的是鼓膜切開術、曾經有過急性中耳炎是否必需鼓膜切開的論議；個人認為不是routine、而施行與否及時機是專門醫的責務。常有久燒不退或頻頻發熱、經內科性的治療沒改善被介紹來的小孩。若發見有急性中耳炎、特別是中耳腔有貯留液的場合、通常都應切開。隔天媽媽們的答覆常常是“退燒了、昨晚睡得很好”、屢試不爽。但並不是每一個case都是燒燙燙的中耳炎、也曾有鼓膜沒膨脹現象、中耳腔的貯留液也沒膿性跡象、讓人猶予有否應切開；最後在斟酌各種因素向父母說明後施行切開、往々隔天也都會得到滿意的笑顏。發熱或許是貯留液使然、退燒或許只是偶然、這有待賢者去解明。

成人的急性中耳炎也是常見的、原因也是以上氣道炎居多。筆者的私人經驗是成人罹患急性中耳炎的、常合併有副鼻腔炎。有一位大先輩的外科醫師的奧さん、常患急性中耳炎都自己服藥解困、却也大約一年要報到一次。有一次痛得自知過不了關、急忙跑來、顯微鏡下的鼓膜膨脹得像快爆炸的車輪內胎；在看完耳朵後、不等我開口她立刻要求要鼓膜切開。當切開刀滑下那一剎哪、一陣風和聲強烈的閃到我的臉頰和耳朵、不禁嚇了一跳。這股強大壓力所加重於中耳炎的疼痛、就是服過止痛藥的這位典型傳統的日本奧さん也難以忍受。也提高了我這位未曾經驗過中耳炎耳痛的耳鼻喉科醫師對痛的想像空間；隔日她告訴我經過5小時以後才解痛。鼓膜切開術似乎是上帝賦與耳鼻喉科醫的一項專利、如何利用就看各人的造化了。

有一本由英國醫師公會發行的clinical evidence的書（有日本語版）、是集各科臨床治療方法檢証的文獻、加以分析加上評論、可供臨床治療的判斷參考。有趣、也可說納悶的是、具有代表耳鼻咽喉科疾病的急性中耳炎在耳鼻咽喉科部門裏面是找不到的、被編在小兒科部門。這讓我想起一次在Boston與幾位內科、小兒科、耳鼻喉科同學聚會中、我問一位耳鼻喉科的同学在美國急

性中耳炎の治療的趨向如何、他却指着一位小兒科同学打趣地說、中耳炎都被他吃掉了、一時恍然大悟。因国情醫療地圖（守備範圍）也會改變、沒有轉診耳鼻喉科醫師也不容易看到急性中耳炎？再追根究底可能還是“お台所事情”。

隨着科技設備的進步、醫療形態也在改變。傳統的觀念・方法必需接受挑戰及再評估。耳鼻咽喉科也不例外、高度醫療的人工內耳已漸漸被接受而推廣；聞之生畏的副鼻腔根治術也已被鼻腔內視鏡手術取而代之。至於急性中耳炎、一個古老的疾患（據說可溯至醫學的始祖 Hippokrates 的記載）、動物為適應陸地生活隨着而來的困擾、其治療方針目前雖沒重大改變、但如沒先進的設備也是無法滿足現代人的需求。耳鼻咽喉科有五孔、且孔中有孔、都需藉助光學設備來“のぞき”。女兒兩歲時、一次在美國親戚家、突然半夜耳痛被帶到急診處、耳朵被挖出血才診斷是中耳炎（這是“素人”的話、不用介意、外耳道受傷出點血並不值得大驚小怪）、讓阿媽很不甘、耳鼻喉科的父親也只能做遠水之嘆。小小的外耳道充滿耳垢是常事、有時會有耳漏、偶而也會有異物、若能藉助顯微鏡的光學設備予以放大 8 倍左右、就可較輕鬆的解決這些問題、進而正確的診斷是否中耳炎、必要時還可避免鼓膜切開時不必要的後遺症。特別是小兒科 refer 來的小病人、只用傳統的設備是無法給與小兒科醫師滿足的答覆的。

日本的耳鼻咽喉科開業醫很容易擁有先進的設備（大部分也已經擁有、使用程度就看個人所需）、從臨床上的診斷、治療處置、到結果的觀察都很容易在門診實行。加上就診不受限制的醫療保險制度、如經整合、日本的耳鼻咽喉科臨床醫也是可以在 clinical evidence 裡大大的“嗆聲”的。

走筆至此、急性中耳炎似乎已經退烧了。但是、其善後處理還會留給耳鼻咽喉科醫師多多的煩惱。

[後言、厚顏]

醫師連合は醫師歯科醫師の集まりでありながら医療に関する交流の足りなさを感じ、敢えて本業の雑話しを書下ろして参りました。同業には日常茶事飯、当たり前のことばかりで申し訳ございませんが、“隔行如隔山”、“えび鯛”のつもりで、少しでも他科先生達のご専門の話が弾けて、吾輩が“少讀幾卷書、少走幾里路”で済めば幸いと存じます。

一寸 お知らせ

次のページ（32）の日本台湾醫師連合選挙規程（案）は、今期の選挙管理委員会が纏めたもので、案として便りの一隅を借りて掲載致します。今後、会員各位のご意見を伺いながら、最終決定案を作り上げ、会員の賛同を経て、来る役員選挙に実行して参りたいと思います。どうぞ、皆様、会のため熟讀の上、ご意見、ご教示を下さいます様にお願ひ致します。（選挙管理委員会）

日本台湾醫師連合選挙規程（案）

第一章 總則

<趣旨>

- 第1条 本規程は定款第13条及び第14条の規定に基づく役員に関する選挙等について定めるものとする。
- 第2条 選挙権の行使は委任を認める。
- 第3条 定款の規程による会員にして、入会後選挙の日において、60日を経過した者は、選挙権及び被選挙権を有する。但し、定款その他の規則により、選挙および被選挙権に制限を加えられる者は、この限りでない。

〈選挙権者名簿〉

- 第4条 選挙権者名簿は、民法第51条第2項の規定により、作成した選挙前日現在の本連合会会員名簿を用いるものとする。

第二章 役員選挙

〈選挙事務の管理〉

- 第5条 この規程において、役員選挙に関する事務は選挙管理委員会が管理する。但し、議場における選挙の執行は総会議長〈以下“議長”という〉の指揮下に入る。

〈選挙管理委員会〉

- 第6条 選挙管理委員会は、委員5名予備委員2名をもって組織する。
2. 委員は、第3条に規定する選挙権及び被選挙権を有する者の中から、理事会にはかって会長が指名する。
 3. 委員に任期は2年とし、委嘱された年の4月1日をもって始期とする。但し、補欠委員の任期はその前任者の残任期間とする。
 4. 前項の規程にかかわらず、委員は任期が満了しても後任者が就任するまでは、その職務を行なうものとする。
 5. 委員は本会役員及び役職を兼ねないことは望ましい。
 6. 第2項、3項、4項、5項の規定は予備委員について準用する。
 7. 選挙管理委員会の委員長（1名）及び副委員長（1名）は、その委員らの互選による。

〈選挙の期日及び方法〉

- 第7条 役員選挙はその任期満了年の3月の総会までに終了しなければならない。但し、特別の事情があるときは、会長は理事会の議決を経て、その期日を変更することができる。
2. 前項の選挙は無記名投票による。
 3. 会長は役員選挙の期日をその期日の前30日までに、公示しなければならない。
 4. 役員候補者〈以下候補者という〉は、前項の公示の日から7日までの間に、文書でその旨を選挙管理委員会に届けなければならない。
 5. 被選挙権を持つ会員は、自ら立候補して候補者になる、或いは推薦を受けて候補者になることができる。
 6. 立候補の届け書には、候補者になろうとする者の氏名、生年月日及び住所を記載しなければならない。
 7. 推薦候補の届け書には、前項の規定する事項のほか、会員である推薦者2名以上の者がその氏名、生年月日及び住所を記載し、かつ候補者の承諾書を添付しなければならない。
 8. 前項に規定する候補者の届け書を受けた時は、選挙管理委員会は速やかに本連合理事会に提出報告しなければならない。

9. 候補者が不足しているときは、理事会の推薦により補足できる。
10. 候補者が役員定員より上回る場合は、選挙管理委員会は候補者一覧表付きの投票用紙を作成し、公示の日から20日以内にこれを選挙権者に速やかに送付し、投票を求めなければならない。
11. 候補者が役員定員より上回らない場合は、選挙管理委員会は候補者一覧表を作成し、公示の日から20日以内にこれを選挙権者に速やかに送付し、賛否を問わなければならない。かつ、候補者名簿は全選挙権者の過半数以上の賛成を得られない場合、上記を繰り返し行なう。

〈当選役員の決定と報告〉

第8条 第7条10項の場合につき、得票数上位の役員定員数の者は正式に承認され、役員の当選が決定である。

2. 第7条11項の場合につき、候補者名簿が全選挙権者の過半数以上の賛成にて、正式に承認され、役員の当選が決定である。

3. 選挙管理委員長は、投票の内容を調査し、得票数を確認して総会において議長に報告する。

4. 議長は前項の報告を受けた時は、新役員を決定し、直ちに議場及び会長に報告しなければならない。

第9条 会長、副会長は理事会を経て理事により互選し、総会にて承認しなければならない。

〈役員に掲示〉

第10条 第8条3項の報告を受けた会長は、これを会員に掲示しなければならない。

〈選挙録の提出及び保存〉

第11条 選挙管理委員会は選挙の経過を記載した選挙録を作成し、議長に提出しなければならない。

2. 選挙録は選挙管理委員会全員これに署名しなければならない。

3. 議長は選挙録を会長に渡し、会長はこれを2年間保存しなければならない。

〈選挙規定の改正〉

第12条 選挙管理委員会は本連合の合理的運営する為、選挙規程に支障が生じた時、速やかに改正し、かつその改正案を文書で理事会に提出しなければならない。

2. 前項の規程は、理事会で4分の3理事の賛同を得て、直ちに施行しなければならない。

本規定は平成 年 月 日よりこれを施行する。
従来の選挙に関する規程を廃止する。

2004年第2回理監事会記録

日本台湾医師連合
会長 岡山文章
幹事 劉国揚
記録 清水栄

時間 2004年2月22日

場所 喫茶室ルノアール四谷店4階

出席者 岡山文章 東昌明 高村豪 劉国揚 毛利忠 長峰俊次 中里憲文 林明憲
丘哲治 中山博雄 王紹英 清水栄 計12名

会長挨拶

協議事項：

- 1) 日本台湾医師連合2004年総会及び自民党幹事長安倍晋三先生講演会の打ち合わせ。 日時：2004年3月28日(日) 午後4時～8時
場所：ホテルオークラ(曙)
- 2) 日本台湾医師連合の小冊子について、以前のを少し修正する。中里先生と相談しながらする。経費は8～9万円程度かかるのではないか。本年の10月までに完成するようにしたい。(王紹英先生)
- 3) NPOについて、まずその構想をさと医も便りに載せて、皆さんにお知らせ、会員たちの反応を待つ。(中里憲文先生)
- 4) 若林先生講演会について、今後記者の参加費をなしとする。
- 4) 李遠哲先生講演会の件について、当会が主催組織の1つとして参加するよう頼まれ、今回はボランティア方式で仕事をする。次回同様の依頼があった場合、当会に全権を任せるかどうかをまず確認した上で仕事を引き受ける。
- 5) さと医も便りについて、編集者は一人の方がやりやすい。編集者が仕事しやすいように、皆で仕事を分担してあげる必要がある、特に文章のワープロ入力。

報告事項：

15年度収支報告、会費納入者は会員149名中99名、約3分の2である。会費納入促進は皆手分けして電話で催促をする。(毛利忠先生)

閉会の辞：

当会の将来を考えて、できれば、皆様の子供を会に連れて来るように。将来は彼らにバトンタッチする必要がある。

2004年第4回に本台湾医師連合理監事会 (平成16年4月18日)の要約

出席者：岡山文章 毛利忠 丘哲治 武田守禄 長峰俊次 中山博雄 東昌明 王紹英

1. 会長挨拶

平成16年3月28日に自民党幹事長安倍晋三先生の講演会と懇親会は無事、円満に行なわれた。会員の皆様の御出席、御協力を頂き、厚く御礼を申し上げる。講演会で、アジアにおける日本と台湾、そして地域全体の国際情勢について、安倍先生から貴重な講演、分析、また皆さんから多数の御討議を頂いた。当日、日本台湾医師連合入会の声が多かった。

2. 議題

1) 安倍晋三幹事長講演会の反省と検討

受付の方が大変忙しかった。これから、領収書に名称を記載せず、参加費を1500円から2000円へ変更し、また受付の人数を増やすという考案が出た。なお、受付の所で、他の団体から頼まれたチラシの配布はあらかじめ本会の会長の同意をえなければならない。

今回、講演会次間の変更は会員の皆さんに緊急連絡をしたが、開会の2～3時間前に会場の現れた人がいた。幸い受付責任者がすでに到着し、対応していた。会場でのビデオ撮影は前もって演者と相談することかどうかについても検討された。

2) 李遠哲博士講演会

平成16年4月3日に行なわれた中央研究院院長李遠哲博士講演会（テーマ知的な人の社会責任）に本会の会員が多く出席す、手伝いをしたほかに、本会の会長岡山が閉会の言葉を述べた。次回、李遠哲博士の来日講演に対し、本会日本台湾医師連合がそれを主催してもよいという意見が出た。

3) ラジオ日経の取材

安倍先生講演会の後に開いた懇親会で、ラジオ日経会社から取材があり、WHO加盟を目指す国際社会の一員としての台湾について、台湾と日本の医療交流について岡山先生の実体験に基づく考え、台湾と日本がより友好関係を築いていくため、日本国民へのメッセージなどについて、岡山会長が取材に応じた。

4) 次回講演会の予定の検討

日本国民に台湾で起きた228事件とその背景をもっと理解してもらうため、台湾の映画「悲情城市」や「多桑」（太平洋戦争後台湾で、かつて日本統治下で日本語教育を受け、日本文化に憧れていた世代の人々の生活を一人の少年を通して回想形式で描いた作品）の鑑賞会を開催する。その会場、費用、解説者などについて現在検討中である。（河田 啓暉）

会のお知らせ

- * 平成16年3月21日、台医連より陳水扁総統宛のお見舞い手紙をお送りしました。
- * 新入会員2名、徳山昌平先生と澤井循暉先生を歓迎致します。会員数は151となります。
- * 平成16年7月18日（日）午後4時より、新高輪プリンスホテルで台湾新駐日代表許世楷先生の歓迎会が開かれます。詳細は李登輝友の会まで。（個人レベルでのご参加をお願いします）
- * 平成16年10月31日（日）、京都大学法学教授中西輝政先生をお招き、講演会を開く予定しております。お楽しみに。

= 巻末 =

台湾総統選挙における現場から起きたさまざまな不思議な社会現象に、まず、頭の中から浮かんだのはモンローの“振子の法則”でした。モンローは政治学者ですが、彼が主張した“振子の法則”というものは、民主主義国家の政治は不動ではなく、柱時計の振子のように左右に揺れることがあり、また、不安定なところがあります。民主主義の歴史が長い国はその揺れる幅が小さいのに対し、歴史の短い国の振幅は大きいと説いています。いまの台湾の現状（民主化、本土化の政治制度を実施したのはわずか16年前）にあてはめると一番適切な説ではないでしょうか。

これから年末に国会議員（立法院議員）選挙にあたって、勝ちつづけていくため、必要のはいかにこの自由と民主主義の姿勢をどこまで持続できるが一番重要なポイントではないでしょうか？

今回の選挙を生で体験なされた会員三名とも鋭い観察力の持ち主です。素人といえども、かなり核心の部分をついてきて、見どころがあり感銘を受けました。

3年目に辿りついた我が日本台湾医師連合に、より良い健全な運営及びもっと活発的な活動を行うため、会員様には、一人一人の心の支えと経済の支援がなければ成り立たないとしみじみ感じます。こういう意味で、今回提出した連合の法人化構想(中里理事)の是非、および日本台湾医師連合選挙規程草案（選挙管理委員会）について会員様が必ず目を通して頂いて、些細な意見でも寄せて頂ければ、強い原動力になると期待しています。（東、岡山）